

未来の古典となるアート・コレクションをめざして

香川県文化芸術局 美術コーディネーター 住谷晃一郎

コレクションの考え方

美術作品は、生れ出たときは、当時の現代アートであった。制作された当初から既に評価の定まった古典的作品であった訳ではない。むしろ、その斬新性から反発を招き、批判に晒された経歴を持つ。しかし、時を経てそれまでにない新しい価値を創造したという点で再評価され、美術史に位置づけられ、古典的作品となっていくものである。

コレクションする側から見ると次のようになる。

- 評価の定まった作家の収集（過去の古典）は、知名度はあるが、2級品を高額で買うことになる。
- 同時代の作家の収集（未来の古典）は、知名度はあまりないが、1級品をリーズナブルな価格で購入できる。

123億円のバスキアも、33年前には375万円であった

2017年5月18日サザビーズオークション（ニューヨーク）でジャン＝ミシェル・バスキアの「無題」（1982）をZozotownの前澤友作氏が約123億円で落札した。

ところが1984年当時、北九州市立美術館がバスキアの「消防士」（1983）をアキライケダギャラリーから購入したときは、375万円であった。他に福岡市美術館、高知県立美術館、世田谷美術館、大阪中之島美術館、ベネッセホールディングスも購入しており、日本はバスキア王国と言われる。

なかでも、高知県立美術館の「フーイー」は、前澤氏の「無題」と同じくバスキア最高潮の「アナス・ミラビリス（驚異の年）」と言われる1982年の制作で、オークションでも、最も高値がつく作品である。

123億円のバスキアも33年前は375万円であったが、仮に3億7500万で100点収集していれば、1兆2300億円の資産になっている。このバスキアのように高騰すると見込まれる同時代の作家をまだリーズナブルな価格のときに購入すれば良い訳で、それは同時代の作家の収集でなければならないことである。

メガギャラリーの採用で村上隆、奈良美智も急上昇

2001 年、村上隆が東京都現代美術館、奈良美智が横浜美術館で機を同じくして回顧展が開催された。このとき、国公立美術館はどこも作品を購入しなかった。2003 年クリスティーズ（ニューヨーク）で村上隆の等身大フィギュア「Miss.KO2」（1996）が約 5,800 万円で落札されるという衝撃的な出来事が起こった。私は「もう買えなくなる」と考え、2004 年高松市美術館で村上隆の「Red Rope」、「Game」（2001）を各 500 万円で購入した。また奈良美智の「Milky Lake」（2001）を 500 万円、デッサン 91 点を 1,200 万円でいずれも小山登美夫ギャラリーから購入した。

ところがその後、2008 年サザビーズ（ニューヨーク）で村上隆の等身大フィギュア「My Lonesome CowBoy」（1998）が約 16 億円で落札され、さらに 2019 年サザビーズ香港で奈良美智の「Knife Behind Back」（2000）が約 27 億円で落札された。

どうして村上隆、奈良美智だけがこのように短期間のうちに億単位の作家になったのか、私は不思議でしかなかったが、かなり時間が経ってから、その理由が分かってきた。村上はペロタン、奈良はペース・ギャラリーというメガギャラリーの採用アーティストになっていたからである。そう言えば、草間彌生も、今はメガギャラリーのビクトリア・ミロであるが、初めはカゴシアンであった。

メガ・ギャラリー・オークション会社・現代アート美術館の三位一体

世界の美術市場を席捲するメガ・ギャラリーは、カゴシアン、ペース、ハウザー＆ワースなど14社あると言われているが、これらのギャラリーは一から作家を育てる訳ではない。ある程度育った作家をスカウトして、市場を世界規模に拡大して価格を押し上げていく。またサザビーズ、クリスティーズなどのオークション会社、現代アートを主力とする主にアメリカの美術館と“相乗的に”、有望アーティストを選別し、その作品価格を高騰させ、美術史への位置付けを行う、「三位一体の構造」が見られる。

戦略の根拠と実践

メガ・ギャラリーの取り扱い作家になると、市場が（国際的に）急拡大し、オークション会社、有力美術館の三位一体構造によって価格が高騰するのは時間の問題なので、**新規採用アーティストを狙っていく**。まだ价格的に手の届く範囲で、直近2、3年の急騰率の高いものから優先順位をつけて購入を進める。

また作品の選定にあたっては、**ターゲットを代表作に絞る**。代表作とは、最も画像の露出度の高い作品である。これが1点でも成功すれば、再現性を手に入れることになり、これを繰り返し、現代アートの代表作が20点でも収集できれば、中核コレクションが出来上がる。これと同様の手法で100点規模に拡充する。その結果、これらの作家の回顧展を開催しようとする、どうしても日本の美術館に借用に来なければならなくなり、他の有力美術館から一目置かれる存在になる。こうして**未来の古典の集積で構成されるジャパン・コレクション**が形成される。